



日本共産党和歌山市会議員
南畠 さち代

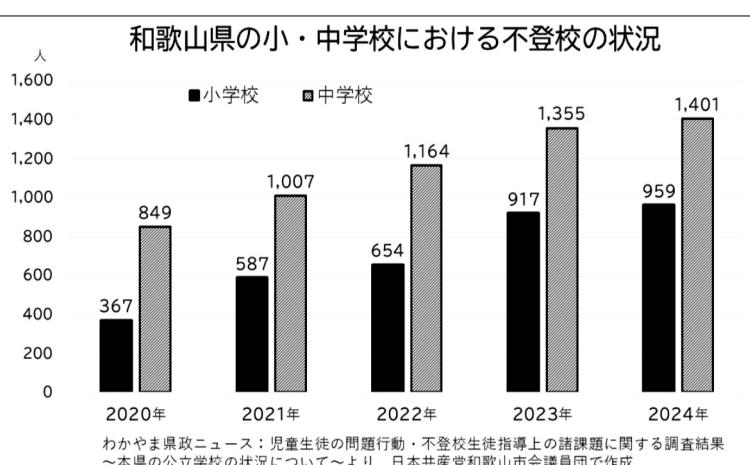
今年もよろしく お願いします

日本共産党

こんにちは 市会議員
南畠 さち代 です



和歌山城一の橋前にて



**不登校の場合、介護休暇
取得の可能性がある**

南畠 さち代
厚労省が2025年1月に、介護休業を適用する子どもの「状態」について判断基準を見直し、「対象家族」であれば利用可能

居場所に

南畠 さち代
環境が必要です。関連部門が一丸となつて他機関と連携し子どもを取り巻く課題に対応できる体制を整えています。

今年は市長選挙の年です。市議団として提出した予算要望には市独自の中小企業への賃上げ支援金制度の創設や、安心して通える楽しい学校づくり等の実現を求めて行きたいと思います。

住民こそ主人公の立場で多くの皆さんと一緒に頑張りたいと思います。

**予算要望書を提出
市長と懇談**

昨日12月24日、党・市議会は、「2026年度和歌山市予算編成にあたつての要望書」を市長に提出しました。

「市の独自予算で、物価

計画について」の3点の重点項目で懇談を行いました。

各部局への要望と併せて文書回答を求めました。

南畠 さち代 不登校児童生徒が増加しております。学校のあり方が問われています。不登校にならない魅力ある学校づくりのためには一人ひとりを丁寧にみるために教職員の増員が必要です。又、校

内支援センターやふれあい教室への交通費支援などの充実や民間のフリースクールへの支援も必要です。

教育長 教職員の定数は国基準で、中核市教育長会等を通じ強く要望しています。

校内支援センターの充実は必要であり児童生徒のニーズに応えられるよう努めていきます。ふれあい教室の通級は保護者の責任で行うとしています。フリースクールへの支援は他市の状況を踏まえ研究していきます。

南畠 さち代 学校はものすごく頑張らないといけない場所になっています。勉強だけではなくゆつたりと過ごせる居場所でないことを子ども達は体を張つて訴えています。

市長 子ども達一人ひとりの個性や可能性を尊重し、学びの喜びを感じられる教

12月議会報告

子ども達が通いたくなる魅力ある学校づくりを



写真左から：尾花市長、森下市議、国重委員長、私、坂口市議

第12回相談所まつりに90人

昨年12月7日（日）、河北ブロック後援会主催で、平井の山本鉄工所跡地で12回目の相談所まつりが開催されました。



赤旗購読を訴える、私と奥村県議

河北ブロック後援会主催となっています。

ミニ相談所まつりを含め昨年で12回目です。オープニングは恒例となっている地元ミュージシャンTOY・BOXの演奏。奥村県議、私は（南畠）、北部地区委員会の国重秀明委員長のあいさつで開会。

今年は新たに地元マジシャンの手品、新婦人のウクレレ演奏がステージを盛り上げてくれました。

“まつり”が初めて開催されたのは2006年4月です。

大人気の焼き芋、新鮮な野菜、ミカンや手作り手芸品やシフォンケーキ、恒例の餅つきと販売など90名の参加者は大満足。

相談所の存在を広く知つてもらおう、共産党を身近に感じてもらおうとはじまり、当初は相談所の運営委員会の主催でした。その後コロナなどで中断し、今は

河北ブロック後援会主催で、平井の山本鉄工所跡地で12回目の相談所まつりが開催されました。



あいさつする私



マジックショード

事前配布のビラを見て初めて参加の方もいて賑やかな“まつり”となりました。



ウクレレ演奏



餅つきする私

無料生活法律相談

次回：2月13日(金)午後6時～

会場：河西診療所です。

相談希望者は南畠さち代まで

無料生活相談

日時：毎週木曜日、午前10時～12時
(電話での相談は常時行っています)

会場：南畠さち代生活相談所

TEL. 073-453-3418、453-7758 (自宅)
和歌山市善明寺411-4

相談実施中は看板を出しています。

お問い合わせは、南畠さち代まで。

TEL. 073-435-1113 (日本共産党市議団室直通)

2025年10月～12月の法律・生活相談件数

生活保護関連：6件、障害者関連：4件、医療関連：1件、
道路関連：2件、介護関連：1件、交通事故：1件、
ゴミ関連：1件、その他：1件

高島さんは現在、NPO法人ファミリーハートフルクリーンセンター業務としてフードバンク活動や高齢者のみまもり活動を準備中です。

直川在住

111人
みつけた
（たかしましづ）
高島 静さん



自宅で放し飼いのピヨちゃんと



フードバンク用の畑

温かく、責任感の強い実力のある方です。現在、畠の世話をしてくれる方募集中です。

彼女の魅力は、フードバンク活動のためにご自身が畠を借りて野菜作りをし、高齢者の見守りのためにヘルパーの資格取得と介護施設で勉強中という取り組み姿勢です。